

静香「聖母の誕生日ってどんなもの
のなんでしょう」

WhiteÄCanvas

1 時間ちょいで作った駄作ですが、良ければ是非読んでみてください。誤字脱字は出来るだけ気をつけたつもりですが、間違いがあったらそっと目をつむって通り過ぎてください…笑

目次

静香「聖母の誕生日ってどんなものなんでしょう」

静香「聖母の誕生日ってどんなものなんでしょう」

天空橋朋花さんお誕生日記念で書きました。

お誕生日おめでとう！

志保「静香……。あなた何言ってるの？」

静香「明日は朋花さんのお誕生日じゃないですか。でも聖母のお誕生日会ってどんなことをすればいいのか分からなくて。」

志保「普通、人を幸せにするのが聖母だから、逆に聖母を祝うというのは確かに難しいかもしれないわね。」

静香「ここは……。あ！育ちゃんに聞いてみましょう！デュエットで朋花さんと一緒に歌ってましたし。」

育「朋花さんの印象ですか？」

志保「正確に言うのと違うのだけれど、ここは難しく聞かずに朋花さんの印象を聞いたほうが確実ね。」

静香「簡単なことでもいいの！育ちゃんが思う朋花さんって、どんな人か教えてくれる？」

育「うーんとね、朋花さんはね！とーっても優しい人なんだ！いつも色々な事を教えてくれるし……、あ！この前夢の中でも私の事を鬼から助けてくれたんだよ！」

志保「朋花さんって夢の中にも出てくれるの……!?!」

静香「ますます不思議な人になっちゃいました……。」

恵美「朋花の印象？」

静香「そうなんです！夜想令嬢・GRACE&ENOC TURNÉの時のヴァンパイアとしての印象が知りたいんです。聖母とは逆の、ダークな朋花さんはどんな感じだったのか。」

志保「聖母とは全く逆の朋花さんは一体どんな感じだったのかと思ひまして。」

恵美「うーん。でもそんなに変わったところは無かったよ？ダークな雰囲気だ

けど、いつもの朋花みたいな優しさも勿論あったよ！」

静香「抑えることのできない聖母のオーラ、ってことでしょうか……。」

志保「これに関しては流石としか言いようが無いわね。」

まつり「朋花ちゃんといえばですか？」

静香「なんとなく、まつりさんと朋花さんって仲がいいように感じるんです。いつもどう思っているのかなと思います。」

志保「この前まつりさんがセンターだったステージのサポーターもやっていましたし、一緒ににおにぎりも作っていましたよね。なんでそんなに仲が良いのかと。」

まつり「確かに姫は朋花ちゃんの事が好きなのです！でも仲が良いというよりは、信頼できる仲間なのです。」

志保「仲間、ですか？」

まつり「なのです！お互いの事をよく分かっている、姫の大事な仲間なのです！だからこれからも姫は朋花ちゃんを頼りますし、朋花ちゃんにも姫をもっと頼ってほしいのです。そして姫と朋花ちゃん、世界をもっとわんだほー！にしたいのです！」

静香「……。」

志保「……。」

静香「……私わかった気がするわ。朋花さんをお祝いする一番の方法。」

志保「あいにく、私もわかった気がするわね。多分、考えていることは同じね。」

静香「そうと決まれば早速！」

志保「準備に取り掛かりましょう。」

次の日

朋花「皆さん！おはようございます。あら？カツオのいい匂いが……？」

静香「朋花さん！お誕生日おめでとうございます！これ、細やかな物ですが……、

よかったら是非！」

朋花「あらあら。これは静香ちゃんの特製うどんですね。……うん。とても優しいのにしっかりとしたカツオと煮干のお出汁。麺も丁度いいコシと歯ごたえでとても美味しいです。ありがとうございます。静香ちゃん。」

志保「と、朋花さん！」

朋花「あら？志保ちゃん。その絵本は……？」

志保「き、昨日、劇場の近くの本屋さんで探したんです。そ、その……、あまり絵本とか読まないかもしれないかもしれませんが、いつも優しい雰囲気の朋花さんなら、きっとこの絵本も似合うと思って。」

朋花「……志保ちゃん。」

志保「や、やっぱり嫌でしたか……?」

朋花「いえ。そんなことはありませんよ? 可愛い絵本ですね。志保ちゃんは意外と可愛い一面もあるんですね。」

志保「か、可愛いって……!」

育「あー! 志保さん顔真っ赤だよ! お熱大丈夫?」

志保「な、なんでもありません……! ないよ、育ちゃん。心配してくれてありがとう。」

恵美「朋花! お誕生日おめでとう! これから琴葉とエレナと近くのファミレスにお昼ご飯食べに行くんだけど、朋花も行く? ドリンクバーもあるよ!」

朋花「せっかくですし、ご一緒させていただきます。でも、ドリンクバーで遊んではダメですよ?」

恵美「ギクッ！な、なんの事だろうな？」

まつり「朋花ちゃん！お誕生日、おめでとうなのです！姫からは朋花ちゃんを、夢の国へご招待なのです！」

静香「夢の国……？」

まつり「じゃーん！いっぱいお菓子を用意したのです！ふわふわマシュマロみたいな、あまーい国なのです！」

朋花「まあ、これはこれほ。美味しそうなお菓子がいっぱいですね。そうです、ここでみなでお菓子を食べながら、この志保ちゃんからもらった絵本を読みましょう。そうすれば、みんな聖母の慈愛が受けられますよ。」

志保「結局、みなで朋花さんの優しさを貰ってしまうことになったわね……。育「でもそれが朋花さん、だよね！」

お菓子の国って一度行ってみたい。

静香「聖母の誕生日ってどんなものな んでしょう」

著者 WhiteÄCanvas

発行日 2019 年 6 月 23 日

ハーメルン -SS・小説投稿サイト-

<https://syosetu.org/novel/174230/>

本書の内容を無許可で転載・複写・複製することは、禁じられております。